#ニッポンの仕事

～社会・経済を支える業界団体～

全日本教職員連盟（全日教連）

「不易」と「流行」で教育の未来を切り拓く

全日本教職員連盟（全日教連）は、日本教職員組合（日教組）の姿勢に疑問を抱いた教職員が昭和30年頃に日本各地で新たに結成した各団体がルーツです。その後、昭和59年に教育正常化の旗印のもと、志を同じくする団体が大同団結し、全日教連が誕生しました。全日教連は結成以来、「美しい日本人の心を育てる」理念のもとに、日本の教育再生の先頭に立ち、次代を担う子供たちの幸せ、日本の新たな未来の創造に全力で取り組んでいます。

国民の負託に応える教育
「美しい日本人の心を育てる」

令和4年7月30・31日の2日間、栃木県で全日教連の第39回教育研究全国大会が開催されました。この全国大会は新型コロナの影響により中止を余儀なくされた過去2年とは異なり、3年ぶりの対面開催となり、会場は開催を待ちわびた会員の熱気に包まれました。さらにコロナ対策で来場できなかった会員のために、オンラインを併用したハイブリッド開催が実現し、研究発表に対する質疑応答が積極的に行われる等、大いに盛り上がりました。

大会委員長の前田晴雄全日教連委員長は大会あいさつの中で「この2年半、学校はコロナ禍に翻弄された」としながらも、「感染防止対策と子供の豊かな学びの保障の両立への教職員一人一人の奮闘」を称えるとともに「結果的には、コロナ禍は教育自体を劇的に転換する契機になった」と断言しました。

一人一台端末の配布により教育ＤＸが進展し、学校教育が「新たな学びの時代」に入っている今日、日本の教育は大変革の時代に突入しているとの認識です。一方で、「私たちの理念である『美しい日本人の心を育てる』ための教育、つまりは教育における『不易』の部分は、より一層重要になってくる」とした上で「これまで顕著な成果を残してきた『不易』の部分に、新時代の『流行』を加え、より一層の国民の負託に応える教育の確立を目指そう」と述べました。

栃木県で行われた第39回教育研究全国大会

この認識のもとに新たな教育改革に真摯に取り組んでいけば、日本の教育現場の雰囲気は様変わりし、子供たち一人一人の多様な夢の実現、いわゆる「Well-being」を実現する教育が根づき、それはまた教育専門職である教師の「Well-being」にもつながるに違いありません。

ただ、教育現場が厳しい現実に迫られていることも、否定できない事実です。例えば、最近、教師不足が教育現場に深刻な影響を及ぼしていると言われます。前田委員長は、「昨今の教師不足の問題は本当に深刻で、現在も定数を満たさずに教育を行っている学校が数多く見られます。団塊世代の大量退職により、20代～30代の採用が大幅に増えたこと、また教師の仕事の過酷さが喧伝されたこと等により臨時的任用教員の数が減り、産・育児休暇、病気休暇、介護休暇等々で、長期休暇をとる教師が増えたにもかかわらず、臨時的任用教員を補充することが難しいこと等が理由です。どうしても代わりが見つからず教頭が担任を持つ例も出てきています」と顔を曇らせ、「教師は子供たちの成長に関わることができる大変魅力ある仕事ですが、長時間勤務等、過酷であることも事実です。より魅力を向上させ、優秀な人材を教育現場に呼び込むためには、給与や待遇の改善が不可欠です」と訴えます。

萩生田光一政務調査会長（中央右）を表敬訪問した前田委員長（中央左）

教職員の研修の機会を増やし資質・能力の向上に取り組む

また、最近、若い先生たちが教育現場のさまざまな仕事に忙殺され、教育への情熱、児童生徒への指導力が不十分では、という意見もあります。この状況について前田委員長は「教師を志す若者は、皆、教育に対する情熱を持っています。しかし、現状では指摘されている状況があるのも事実です。そこで私たちは教師が自信を持って児童生徒の指導ができるよう、研修の機会を増やしています。全日教連には、日本教育文化研究所（教文研）という、教育問題に特化したシンクタンクもあり、教職員の資質・能力の向上、現代教育課題への提言等には、喫緊の課題として取り組んでいます」と力説します。

全日教連は創立当初から道徳教育の重要性を訴えてきました。関連のパンフレットには、「美しい日本人の心（自己を愛する心・人を愛する心・自然を愛する心・社会を愛する心・国を愛する心）」と書かれています。冒頭の第39回教育研究全国大会も、「美しい日本人の心を育てる」が大会理念に掲げられていました。

このキャッチフレーズは凶弾に倒れた故安倍晋三元総理の持論と通底します。全日教連が「ポスト・コロナ」の時代に自民党と連携しつつ、いかにして「美しい日本人の心」を教育面からフォローしていくか注目です。

第39回定期大会でビデオ祝辞を述べる岸田文雄総理

昨年度開催された教育シンポジウム（Web）

全日本教職員連盟
前田 晴雄 委員長

この春、第15代全日教連委員長として、昭和59年の設立以来、連綿として受け継がれてきた全日教連の理念・活動を引き継ぐことになったとき、私が改めて心に刻んだことは、日本の未来を創る全国の子供たち及び教育専門職としてのプライドを持って学校現場で必死に奮闘している先生方、教育に携わる全ての人々の多様な幸せ（well-being）が実現できる教育環境づくりにまい進するということです。

そのために①要望・提言活動の充実②質の高い研修の充実③組織の強化・拡大――といった活動を重点項目として掲げ、学校現場の状況改善による働き方改革の推進、教員免許更新制の発展的解消による新たな研修制度の構築、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド研修の推進等、さまざまな成果を上げています。全日教連は今後とも、誇り高く良識のある教職員団体としての活動を推進し、新たな日本の教育の未来を切り拓いていく所存です。